

1. 第三者評価報告概要表

作成日 平成21年7月15日

【評価実施概要】

事業所番号	2872001710		
法人名	社会福祉法人 三幸福祉会		
事業所名	グループホーム清華苑		
所在地	兵庫県明石市大久保町江井島1648-5 (電話) 078-937-8470		
評価機関名	株式会社H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6番8-102号		
訪問調査日	平成21年5月15日	評価結果確定日	平成21年7月27日

【情報提供票より】 (21年3月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 5 月 15 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤5 人, 非常勤 12 人, 常勤換算13.8	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	4 階建ての	2 ~ 4 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	63,000 円	その他の経費(月額)	21,000 円
敷 金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(189000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食 200 円	昼食 500 円	
	夕食 500 円	おやつ 150 円	
	または1日当たり 1,350 円		

(4) 利用者の概要 (3月1日現在)

利用者人数	17 名	男性 2 名	女性 15 名
要介護 1	8	要介護 2	4
要介護 3	2	要介護 4	3
要介護 5	0	要支援 2	0
年齢	平均 83.3 歳	最低 73 歳	最高 98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	大久保病院 佐藤歯科
---------	------------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホーム内はゆったりと寛げる広さが確保され、大きく開いた窓からの自然の風や光を利用者は五感で感じる事ができ、開放的で心地よい生活空間となっている。利用者一人ひとりの「自分らしさ」を大切に、張りあいや楽しみを感じながら暮らしていくよう、介護計画作成時も利用者の力量にそって役割や楽しみ事を取りいれた目標設定を行っている。日々の暮らしの中に、食事作り・掃除・洗濯物干し等の家事や、学習療法、回想法、理学療法士による個別リハビリ等の機会を作り、利用者の思いにそった支援がなされている。地区ゾーン協議会や連合自治会への参加により「地域と一体感がもてる生活」の実現に向けた働きかけも継続されている。

【重点項目への取組状況】

重 点 項 目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)
	評価の結果は自由に閲覧できる。自己評価は毎年スタッフが作成しており、昨年度の評価結果も現場の業務に良い影響を与えつつある。今後もこの方針を継続させたいと考えている。
重 点 項 目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4)
	自己評価は毎年スタッフが作成しており、職員の意識向上、職場の活性化といった効果が現れている。相談員が最後の確認の確認を行い、共同で評価表を作り上げている。
重 点 項 目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月に1回開催されており、家族や在宅介護支援センター職員、医師も参加しており、医療的な問題も話し合われる。メンバーの意見は綿密に取り上げられており、サービスの向上に役立つよう検討されている。
重 点 項 目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7, 8)
	広報誌を毎月発行しており、1ヶ月ごとのケース記録をまとめて家族に報告している。意見、要望を抽出すべく目安箱を設置しているが利用は少なく、家族の面会時に会話の中から意見を得る場合が多い。職員会議を通して施設長に報告し運営に反映させている。
重 点 項 目	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)
	地区ゾーン会議は3年間続いている。医師会、薬剤師会をはじめ多数の地域役員が参加している。3ヶ月に1回のペースで開催されており、自治会への活動にも参加している。登下校児童の見守りや清掃活動をお願いしたいとの声もかかるており、今後も期待されている。

2. 第三者評価報告書

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念にはスタッフの意見も組み込まれており、「地域に根ざした施設」「地域に開かれたサービス」「共存、共栄」を念頭に「地域と共につくるケア」を目指すことを掲げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関に掲示していると共に、職員は経営理念、運営理念が記入されたカードを常時携帯している。ケアプラン作成時にも理念を反映させており、唱和することで個人の意識づけにも役立っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区ゾーン協議会は3年間続いている医師会、薬剤師会をはじめ多数の地域役員の参加があり、3ヶ月に1度のペースで開催されている。自治会の活動にも参加しており、登下校の見守り活動、清掃活動等、自治会からも積極的に参加して欲しいとの声もあり、今後とも地域とのつながりを築いていく意向である。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の結果は自由に閲覧できる。自己評価は毎年スタッフで作成してもらい、相談員が確認し、提出する。回を重ねるごとにスタッフの自覚向上、気付きが増えてきた。家族にも結果は郵送しており、ホームページにも記載されていることを通知している。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は医師も参加しており、家族からの質問は医療的なものが多い。参加メンバーからの意見を細かく抽出し、スタッフ会議で検討しており、意見の反映に努めている。		
6	9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	不定期ではあるが、市の介護保険課が実施している取り組みのひとつで入居者の意向や悩みを聞いてくれるサービスを活用している。地区ゾーン協議会では市町との連携を密にすることに努めている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「華だより」と称した広報誌を毎月発行し、家族に報告している。1ヶ月ごとのケース記録をまとめ、担当者が家族と連絡をとっており、今後のケアプランに活かせるよう取り組んでいる。家族会の設置を今後の課題として捉えている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	目安箱を設置し、意見の抽出を図っているが実際の利用は少ない。主に家族の面会時に話をすることが多く、スタッフ全員で意見の聞き取りに取り組んでいる。職員会議を通して出された意見は施設長に報告し運営に反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	できる限りだけ職員の異動はないよう心がけており、「なじみの関係」づくりに努めている。法人内での異動はあるが、広報誌にも掲載し、公表しているため家族や他事業所への周知にも配慮されている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画の中で内部研修の研修項目を決め、フロアに分れ毎月1回実施するようしている。また、月ごとに現場の実情に応じた内容の勉強会も実施している。全職員に年1回の外部研修参加の機会があり、勤務調整・費用負担などホームが行い、職員が研修を受けやすい環境が整っている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市や行政の協力を得て他事業所との交流をしたいと考えているが、現在包括支援センターも協力できる体制ではないため、交流がすくんでない状況である。同業者との交流を行っていくための具体的な対応策は、今後の検討課題であると捉えている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するため、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者、家族とも納得されるまで訪問、見学に来てもらっている。常時空部屋も開放しており、泊まりの体験利用にも対応している。他の利用者と触れ合う場を設け、雰囲気を理解してもらえるよう努めている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の中で役割の分担については特に注意している。「共に過ごす」意識は対職員だけでなく他の利用者との人間関係にも配慮されており役割意識の過不足が生じないよう気をつけている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段から生活の中での会話の中から意見を聴取するように努めている。ケアプランの更新時にも普段の会話や動き・表情などから希望や要望・意向を汲みとるようにしている。家族が来所時には声えかけを行い、意見や要望を聞き取るようにしている。		
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	担当者を中心に、家族やケアマネージャーをはじめ必要な場合は医師の協力も得てケアプランを作成している。極端な思いや偏見に繋がらないよう事前に意見の調整を行った上でミーティングを開いてケアプランを作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月、職員は介護計画にそった支援ができるか、ケアチェック表にて振り返っている。チェック表を参考に、三か月に1回ケアプラン会議の中で検討し、計画の定期的な見直しを行うとともに、利用者の状況変化に応じた随時の見直しにも対応している。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の希望する医療機関への通院の付き添いは基本は家族にお願いしているが、状況に応じて、職員が臨機応変に対応できるよう取り組んでいる。また、利用者の入院時は病院側と連携し、病状の安定と早期退院に向け情報交換を行っている。利用者の個別の外出や買い物代行に柔軟に対応している。		
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	階下にある医療機関による月二回の定期的な往診があり、日常でも24時間体制にて健康面での相談が可能である。家族の希望するかかりつけ医への受診支援や認知症の専門医の往診も行っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時などに、利用者・家族に対して、重度化した場合のホームとしてできる事・できない事を明確に伝えている。利用者の状態変化に応じて、担当医や家族とその都度話し合い、方向性の統一化・共有化を図っている。緊急時等に適切なケアができるよう定期的な研修を行っている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)			
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援								
1. その人らしい暮らしの支援								
		(1)一人ひとりの尊重						
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者への言葉かけや対応については、その都度職員間で注意しあうよう心がけている。個人情報保護方針については研修で理解と認識を深めあい、利用者のプライバシー確保のために、申し送り時の配慮・記録物の記載の工夫・介護記録等書類保管の管理は職員間で統一した対応を行っている。					
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居時に得た本人や家族からの情報や日常の様子から、本人の暮らしのペースを把握するよう努めている。食事のペース・食後の片づけ・アクティビティーへの参加など、本人の意向にそって見守りやさりげないサポートを心掛けている。					
		(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援						
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は管理栄養士が作成し、外部より搬入された食材をもとにホーム内で調理している。食事作りや後片付けは、利用者の力量や関心に配慮しながら手伝ってもらっている。個々の好みの食器を使って、職員も共に食事をとり、楽しい雰囲気作りを心掛けている。また、利用者の希望を取り入れたメニューに変更したり外食を取り入れる機会も作っている。					

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の習慣や意向にそって毎日の入浴希望にも対応できるよう配慮している。時間は昼間を基本としているが、夜間入浴についても状況によって応じる体制を整えている。入浴の利用日は個々に記録に残し、拒否傾向のある方には、本人のペースを見ながら声かけの工夫を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	今までの生活歴や趣味をもとに、介護計画の中にも利用者一人ひとりの力量が活かされるよう、個々の役割や楽しみ事を取り入れている。暮らしの中で、無理なく食事作り・掃除・洗濯物干し等できるよう支援している。また、計算ドリルを活用した学習療法、写真など使った回想法、編み物、理学療法士による個別リハビリ等の機会を作っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に岡かけられるよう支援している	週の中に数回買い物や散歩を取り入れ、また、外食やドライブにて気分転換を図っている。利用者にアンケートを取り、月に1回程度利用者の希望が反映された外出ができるよう取り組んでいる。		

第三 者	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを 期待したい 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		(4)安心と安全を支える支援			
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホーム周辺道路の交通量の多さや建物内の構造・配置を考慮し、利用者の安全確保のために各フロアの玄関は施錠している。利用者に施錠による不安感が生じないよう見守り、適宜付き添って外へ出たり屋上で過ごす等対応している。施錠の状況については家族に説明し了解を得ている。		管理者・職員は施錠による弊害について話し合い認識している。今後も、利用者の安全を確保しながらも改善できる点はないか、家族の意見も参考に、職員間で話し合うことを期待する。
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年間を通じて定期的に避難訓練を実施し、夜間想定した訓練も行っている。更に防火委員を中心に、利用者も参加した避難誘導訓練を行い、点検表をもとに定期的な確認を継続している。災害時の協力体制を整備していくために、連合自治会への呼び掛けを行っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立内容についての気づきは栄養士にその都度伝え、利用者の意向を反映させている。食事摂取量や水分摂取量は適宜確認し、個々に記録に残している。歯科医のアドバイスも参考にし、咀嚼力や嚥下の状態を考慮しながら、個々の利用者の食べやすさや飲み込みやすさに配慮した食形態の工夫がなされている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)				
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり									
(1) 居心地のよい環境づくり									
29	81	居心地のよい共用空間づくり	各フロアの共有空間は広々として、窓も大きく開放的で採光や換気に配慮されている。ホーム内の随所に季節の花が飾られ、手作りカレンダーや切り絵の作品が親しみやすく掲示されている。広いカウンターキッチンにて、利用者が気軽に食事作りの一連の流れに関わりやすく、職員も見守りやすい配置となっている。屋上では園芸を楽しむスペースや庭園がありベンチとテーブルを設置しくつろげる空間となっている。						
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮	本人や家族に働きかけ、使い慣れた家具やテレビ・家族写真等持ち込み、それぞれの個性を大事にした安らぎの場となっている。希望すれば携帯電話の持ち込みや家族の宿泊も可能で、家族とのつながりの継続にも配慮している。						

は、重点項目。